

たとえばみけねこ

「例えば、南極の越冬隊に参加した三毛猫が雄だったことは記憶に新しい。しかし猫の毛色を決定する遺伝情報は性染色体上にあり、XとYとの染色体に乗る色情報に偏りがあるため、理論上三毛猫に雄は存在する筈はないんだ」

「んーとお……………」

「大抵、ま、哺乳類なら全部雌はXX、雄はXYという染色体の組み合わせが一般的」

「そーじゃなくって、越冬隊の雄三毛猫ってそんな新しくない話だったと思うけど……」

「しかし、卑彌呼の時代から越冬隊がある訳じゃない。だいたい、その頃人は南極を常夏の国ととらえていたに違いない」

「じゃあ南半球御出身のアウストラロピテクスさんは北極を常夏だと思ってたのね」

「そうだ。けどそれは記憶に古い話だ」

「……人の記憶は遺伝するってゆーやつのこと？」

「そう、二重螺旋の容量は莫大だからきつとそれくらい遺伝する。理論上IC回路も原子レベルにまで縮小できるんだし」

「だからDNAも負けちゃいないのね。DNAのDはダイナミックのD！」

「デオキシリボ核酸のDっ！ リボ核酸はRNA！」

「そうそ、ICと言えばもう今やコンピュータも非ノイマン式、ニューロンの時代。ニューロン細胞は情報伝達にナトリウムやカリウムの化学反応を利用しているからニューロンコンピュータはグルタミン酸モノナトリウムソーダを主原料とする味の素をエネルギー源にしているんでしょ？ でも味の素は穴おっきいからたくさんふりかかっつてすぐなくなるからいっぺんか旭化塩をおすすめなの！」

「どこでそーゆーいかがわしい情報を得てくるんだよ？」

「浮浪者風の男が一人座っているベンチの隣になにげなく腰掛けてたばこをくわえ、ついでにその男にもたばこをすすめつて後ろ手で紙切れを受け取ってなにごともしなかったかのように立ち去る……」

「そーかい。そりゃ結構な情報源なこと」

「ちなみにエネルギー源はごはん！」

「わかったわかった。でも化学調味料なんて食べても賢くはない」

「でも旨み調味料って名前が変わったから美味しくなったんじゃないのかな？」

「公害問題以降、化学という文字の魔力は潰えて久しい。だから名前が変わっただけのこと」

「つまり、化け学は旨み学に化け、高校でも旨み学という科目を教える」

「うまくないねえ」

「……さいなら、どーせあたしゃ日本海の荒波とそそり立つ断崖絶壁がお似合いなのよ」

「そーかな？ 海岸につづく小砂丘と防砂林を抜けると、一面に広がり揺れる黄金の穂の平原にぼつりぼつりと点在する家屋……………」

「砺波の出身じゃないんだよ」

「散村は厭なの？」

「サンソン図法ならいいよ」

「……メルカトル図法のほうが浪漫があつていいね。極付近でかかろうが最短距離わからなかろうが大航海時代の匂いがする

から、浪漫だ」

「だったら地球儀にしたら？」

「天球儀のほうが浪漫だ」

「でも天球儀って宇宙をその外から見た形になっているから、さかさまでわかりにくい……」

「プラネタリウムのほうがお好き？」

「うん！ ニュージーランドから見る南十字星が特に好み」

「南米マチュピチュから見る南の三角のほうがちっちゃくって面白いと思うけどな」

「浪漫はどこ行っちゃったの？」

「マチュピチュは浪漫だよ。スペインは天然痘という生物兵器を遣ってインカを滅ぼし金品を強奪した。これは頭らかに国際法違反だ。……けどその頃の国際法はスペインとポルトガルが取り交わした侵略する国は西経45度と東経135度の子午線で地球を立て切りにした片方とかいうのくらいなもので……」

「うわーっ！ そうなると日本は……西がポルトガルで東がスペインの領土だった訳ね」

「そう、だからスペインがインカを滅ぼし都市を破壊し金品を強奪しようともどーでもよかった訳で、あ、そう言えば中世の国際法にはこんなのがあった。本来石を飛ばす弩を改造して金属製のごっつい矢を飛ばす仕掛けにしたものが開発されたんだけど、あまりに強力でちょっとやそつとの鎧じゃ貫かれてしまう。いやそれどころか二、三人軽く串刺しにするほどの威力があり、残酷なためこれの使用をひかえることを各国間で取り決めた……」

「国際法って戦争のルールなの？」

「そゆこと。合法的に殺人をするにはそれなりの根拠をつくらないことには万物の霊長たる人間は気が引けてしまう。だから宣戦布告なんてものも必要になっちゃう。そうそ、第一次世界大戦の時には化学生物兵器、即ちBC兵器が禁じ手になったけど、ついでにダムダム弾の使用も駄目になった……。……と、期待するけど、言うなよ」

「わーい、駄目駄目！」

「……言うなって言ったのに……」

「期待には応えるのがあたしの信念。で、なんなんそのだんだん？」

「……そいつは弾の先がぎざぎざに切り開かれているから直進性と射程に弱いところあるくせして人に当たるとこれがまた大当たりな訳で……」

「香港旅行くらい？」

「香港在住の添乗員に言わせると日本人旅行者で一等いいのが農協ツアーの人で逆に一等厭なのが関西人だそうだが……。……とにかくっ！ ダムダム弾はその回転により内部をえぐり取り、突き抜けた穴はぼっかり直径20や30cmという……これまた残酷」

「……で、冒頭の例えばってなんなん？」

「はいはい、やっつと話が本筋に戻った……………」

「でももう時間切れね」

「おかしいな、どこで話が逸れたんだろう？ 再帰的に逸れていってしまっているなら、いづれ本筋に戻ってこれるだろうけど」

「わーい時間切れ時間切れ！」

「だから三毛猫の雄は幸運の象徴なんだけれど……」

「つづくかも」